

平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年10月28日

上場取引所 東

上場会社名 ブロードメディア株式会社

コード番号 4347 URL <http://www.broadmedia.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 太郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 植村 保彦

TEL 03-6439-3725

四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	5,780	△8.6	△534	—	△849	—	△851	—
26年3月期第2四半期	6,323	0.0	△305	—	△570	—	△695	—

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 △876百万円 (—%) 26年3月期第2四半期 △661百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△13.05	—
26年3月期第2四半期	△10.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	9,750	5,281	47.9	71.60
26年3月期	11,099	6,117	49.4	84.04

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 4,669百万円 26年3月期 5,481百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	12,000	△7.7	△660	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期2Q	66,723,516 株	26年3月期	66,723,516 株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	1,507,332 株	26年3月期	1,507,332 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期2Q	65,216,184 株	26年3月期2Q	65,216,184 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	6
4. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	12
(重要な後発事象) .....	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における売上高は、前年同期と比べ542,449千円(8.6%)減少し、5,780,648千円(前年同期は6,323,097千円)となりました。「放送」は増収となったものの、他の4つのセグメントが減収となったことにより、売上高は減少いたしました。

営業損益は、534,291千円の損失(前年同期は305,565千円の営業損失)となりました。「放送」が営業利益を計上したものの、「コンテンツ」「スタジオ」「ネットワーク営業」で営業損失を計上したことが要因です。

経常損益は、849,770千円の損失(前年同期は570,112千円の経常損失)となりました。営業損失に加え、持分法による投資損失が発生したこと等が主な要因です。

四半期純損益は、851,168千円の損失(前年同期は695,977千円の四半期純損失)となりました。CDN事業の一部を営業譲渡したことに伴う特別利益を計上いたしましたが、上記経常損失に加えて、税金費用や貸倒引当金繰入額を計上したこと等により、四半期純損失となりました。

(平成26年9月30日現在)

セグメントの名称	事業内容	主な業務の内容	主な関係会社
コンテンツ	ホームエンタテインメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドゲーム事業</li> <li>・クラウドゲーム機「G-cluster」の販売及びクラウドゲームサービスの提供</li> <li>・通信事業者へのクラウドゲームプラットフォーム提供及びゲーム事業者へのクラウドゲーム機能提供</li> <li>・クラウドビデオ「T's TVレンタルビデオ」の提供</li> <li>・インタラクティブシステム「T's TVクラウド」の提供</li> </ul>	Gクラスタ・グローバル(株) Oy Gamecluster Ltd. G-cluster, Inc. (注) 1, 3
	映像サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PC・スマートフォン・タブレット向け、ドラマ専門映像配信サービス「ドラMAXアリーナ」の提供</li> </ul>	ハリウッドチャンネル(株)
	CS放送会員サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CS放送視聴に関する独自の会員制サービス「Club iT」の運営</li> </ul>	—
	モバイルサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モバイルサイト「ハリウッドチャンネル」等、複数サイトの企画・運営</li> <li>・スマートフォンサイト「クランクイン！」等の企画・運営</li> </ul>	ハリウッドチャンネル(株)
	教育サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イーラーニングシステムを利用した単位制・通信制高校「ルネサンス高等学校」「ルネサンス豊田高等学校」「ルネサンス大阪高等学校」の運営</li> <li>・科学検定委員会の運営</li> </ul>	ルネサンス・アカデミー(株)
	その他サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ナショナル ジオグラフィック」日本語版公式サイト等の運営等</li> </ul>	ルネサンス・アカデミー(株)
放送	釣り専門チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛星一般放送事業「釣りビジョン」及び衛星基幹放送事業「BS釣りビジョン」の番組制作、放送及び、ケーブルテレビ局等への番組供給</li> <li>・映像の受託制作</li> </ul>	(株)釣りビジョン
スタジオ	制作事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語字幕制作、日本語吹替制作、文字放送字幕制作、番組宣伝制作</li> </ul>	ブロードメディア・スタジオ(株)
	番組販売事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハリウッド映画等のテレビ局への供給</li> </ul>	
	映画配給事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・劇場映画の配給、DVD/Blu-rayの発売、テレビ放映権の販売</li> </ul>	
技術	CDNサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツを最適な形で配信するCDNサービスの提供</li> </ul>	CDNソリューションズ(株)
	デジタルシネマサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロードメディア*CDN for theaterの提供、及び上映システム的设计・販売及びレンタル</li> </ul>	—
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画館へデジタル機材の導入を推進する配給・興行向けVPPサービスの提供</li> </ul>	デジタルシネマ倶楽部(株)
その他サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの客室、会議室へのインターネットサービスの提供、機器の監視及び保守サービスの提供</li> </ul>	ルーネット・システムズ(株) (注) 2	

ネットワーク 営業	ISPサービス販売	・「Yahoo! BB」ISPサービスの販売	—
	携帯電話サービスの取扱い	・「ソフトバンク・モバイル」の携帯電話サービスや携帯電話端末の取り扱い	—
	ブロードバンド回線販売	・ブロードバンド回線「Yahoo! BB」及びその他商材の販売	—
その他 (注) 4		・中国における、釣り番組のコンサルティング、釣りポータルサイトの運営、釣り関連商品の販売、釣り大会の運営等	湖南快樂垂釣發展有限公司
		・全テレビ番組録画機の企画・製造・販売、及びテレビ番組ソーシャルサービスの運営	ガラポン(株)

- (注) 1 Oy Gamecluster Ltd. 及びG-cluster, Inc. は重要性が増したため、第1四半期連結累計期間より、持分法の適用範囲に含めております。
- 2 ルーネット・システムズ(株)は新たに株式を取得したため、第1四半期連結累計期間より、連結の範囲に含めております。
- 3 Gクラスター・グローバル(株)、Oy Gamecluster Ltd. 及びG-cluster, Inc. は持分法適用関連会社であるため、その業績は報告セグメントにおける「コンテンツ」セグメントには含まれておりません。
- 4 「その他」に含まれる事業は、全て持分法適用関連会社における事業であるため、報告セグメントには含まれておりません。

当第2四半期連結累計期間における各セグメントごとの売上高及び営業利益の概況は、以下のとおりです。

#### ①コンテンツ

「コンテンツ」セグメントは、ホームエンタテインメント、映像サービス、CS放送会員サービス、モバイルサービス、教育サービス及びその他サービスで構成されており、テレビ・PC向けの動画配信、モバイル向けのコンテンツ配信、CS放送視聴に関する独自の会員制サービス及び広域通信制高校に至るまでの広範な事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ347,051千円(25.5%)減少し、1,014,165千円(前年同期は1,361,216千円)となりました。教育サービスにおいて前年同期に導入したタブレット端末(教材)の需要が一巡し売上が減少したことや、CS放送会員サービスが平成26年5月末で終了したこと等により、減収となりました。

営業損益は、394,452千円の営業損失(前年同期は243,939千円の営業損失)となりました。クラウドゲーム事業において、広告宣伝費等の見直しにより損失は縮小いたしました。一方で、6月以降、CS放送会員サービスの収益がなくなったことに加え、教育サービスにおいて、平成26年4月に開校した「ルネサンス大阪高等学校」の先行費用が発生したことが主な要因となり、営業損失となりました。

#### ②放送

「放送」セグメントは、釣り専門番組「釣りビジョン」の制作、並びにBS・CS放送及びケーブルテレビ局等あての番組供給事業を行っております。

売上高は、前年同期と比べ194,388千円(9.3%)増加し、2,289,567千円(前年同期は2,095,178千円)、営業利益は170,418千円(前年同期は70,322千円)となりました。

制作売上が好調であったことに加え、視聴料収入は堅調に推移いたしました。また、「スカパー!」の標準画質放送の終了にとともに、前年度から発生していた加入者の移行に関わる販促費用が減少したことも要因となり、増収増益となりました。

#### ③スタジオ

「スタジオ」セグメントは、映画やドラマ等の映像作品の調達、日本語字幕・吹替制作から、その作品の配給、販売を行っております。

制作事業では受注の後ろ倒しに加え、原価率の上昇により減収減益となりました。番組販売事業は、テレビ局への販売が減少したことにより減収減益となりました。また、映画配給事業は、配給作品の興業成績が不調だったことに加え、ビデオ販売が後ろ倒しになったこと等により損失を計上しております。これらの結果、売上高は、前年同期と比べ44,417千円(3.5%)減少し、1,209,307千円(前年同期は1,253,725千円)、営業損益は197,337千円の営業損失(前年同期は66,053千円の営業損失)となりました。

## ④技術

「技術」セグメントは、デジタルシネマサービス及び「ブロードメディア<sup>®</sup>CDN」等のCDN（コンテンツ・デリバリー・ネットワーク）サービスを行っております。また、ルーネット・システムズ株式会社を第1四半期連結累計期間より連結子会社といたしました。

売上高は、前年同期と比べ184,025千円（21.6%）減少し、669,634千円（前年同期は853,660千円）、営業利益は790千円（前年同期は26,534千円）となりました。デジタルシネマサービスにおいて機材の販売が減少したことや、CDNサービスにおいて、CDN事業の一部を営業譲渡したことにより売上が減少したこと等が主な要因となり、減収減益となりました。

## ⑤ネットワーク営業

「ネットワーク営業」セグメントは、ISPサービスや携帯電話サービス、ブロードバンド回線等の販売代理店として、通信回線販売業者等の事業者を通じて販売活動を行っております。

売上高は、前年同期と比べ161,343千円（21.2%）減少し、597,972千円（前年同期は759,316千円）となりました。これまで上昇傾向にあった解約引当率は低減の兆しが見えてきましたが、前年同期比では依然高い水準にあることに加え、ISPサービスの販売が減少したことが要因となり、売上高は減少しました。

営業損益は113,709千円の営業損失（前年同期は92,429千円の営業損失）となりました。原価率は低下したものの、売上の減少にともない、営業損失は増加しました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (イ) 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べ1,023,640千円減少し、5,944,782千円となりました。番組勘定が増加した一方で、現金及び預金や受取手形及び売掛金、商品及び製品が減少いたしました。固定資産は、リース資産や投資有価証券が減少したこと等により前連結会計年度末に比べ324,684千円減少し、3,806,161千円となりました。これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べ1,348,325千円減少し、9,750,944千円となりました。

## (ロ) 負債

流動負債は、買掛金や短期借入金、未払法人税等が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ480,583千円減少し、2,866,749千円となりました。固定負債は、長期リース債務が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ31,610千円減少し、1,602,348千円となりました。これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ512,194千円減少し、4,469,098千円となりました。

## (ハ) 純資産

当第2四半期連結累計期間において、四半期純損失851,168千円を計上したことが主な要因となり、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ836,130千円減少し、5,281,845千円となりました。これにより、自己資本比率は47.9%となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,016,699千円減少し、1,731,196千円となりました。

## (イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、マイナス358,545千円（前年同期はマイナス485,769千円）となりました。当第2四半期連結累計期間に税金等調整前四半期純損失772,140千円を計上したことに加え、前受金の減少等により、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

## (ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、マイナス299,878千円（前年同期はマイナス267,459千円）となりました。CDN事業の一部を営業譲渡したことによる収入があった一方で、貸付や固定資産の取得による支出があったこと等によるものです。

## (ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済や借入金の返済があったこと等により、マイナス358,356千円（前年同期はマイナス12,666千円）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、平成26年4月25日の決算発表時に公表した通期業績予想を下記の通り修正いたしました。

1. 平成27年3月期通期 連結業績予想数値の修正 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	13,000	△400	—	—	—
今回修正予想 (B)	12,000	△660	—	—	—
増減額 (B) - (A)	△1,000	△260	—	—	—
増減率 (%)	△7.7	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成26年3月期)	12,301	△618	△1,134	△777	△11.93

2. 修正理由

<売上高>及び<営業利益>

「放送」セグメントは、制作売上が好調であることに加え、視聴料収入も堅調に推移しております。一方で、「コンテンツ」セグメントにおけるクラウドゲーム事業では、期初の想定よりサービスの拡大が遅れており、第3四半期以降も緩やかな伸びとなることを見込んでおります。また、教育サービスでは、平成26年4月に開校した「ルネサンス大阪高等学校」の生徒獲得数が当初の予想を下回って推移しております。さらに、「スタジオ」セグメントにおいて、第3四半期以降は売上高の増加と利益計上を見込んでおりますが、映画興行成績及びビデオ販売の不調や、制作受注の後ろ倒し等によって、第2四半期連結累計期間が期初見通しを下回った影響が大きく、通期で損失を計上する見込みとなりました。

これらの理由により、売上高は前回発表を下回り、営業損失が拡大する見通しとなりましたので、業績予想を下方修正いたします。

<経常利益>及び<当期純利益>

前回発表時と同様に、Gクラスタ・グローバル株式会社及び湖南快樂垂釣發展有限公司における業績見込みの不確実性が高く、その業績が反映される経常利益及び当期純利益は予想が困難なため、引き続き開示を控えさせていただきます。

【参考】

通期連結業績予想のセグメント別内訳は以下の通りです。

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)-(A)	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B)-(A)
合計	13,000	12,000	△1,000	△400	△660	△260
コンテンツ	3,150	2,200	△950	△445	△700	△255
放送	4,150	4,500	350	165	300	135
スタジオ	3,000	2,700	△300	65	△75	△140
技術	1,450	1,400	△50	△25	30	55
ネットワーク営業	1,250	1,200	△50	△160	△215	△55

※ 上記の業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因によって異なる可能性があります。特に、クラウドゲーム事業の状況によって大きく変動する可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,747,895	1,731,196
受取手形及び売掛金	1,669,125	1,659,422
商品及び製品	511,024	438,910
仕掛品	107,906	89,420
原材料及び貯蔵品	124,945	110,161
番組勘定	1,210,927	1,212,334
その他	599,888	706,781
貸倒引当金	△3,290	△3,446
流動資産合計	6,968,423	5,944,782
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	1,445,761	1,413,845
その他(純額)	272,826	292,527
有形固定資産合計	1,718,587	1,706,373
無形固定資産		
のれん	37,012	40,299
その他	373,215	400,009
無形固定資産合計	410,228	440,308
投資その他の資産		
投資有価証券	1,413,610	1,171,400
その他	592,680	590,751
貸倒引当金	△4,260	△102,672
投資その他の資産合計	2,002,029	1,659,479
固定資産合計	4,130,846	3,806,161
資産合計	11,099,269	9,750,944

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	471,232	391,522
短期借入金	464,000	248,000
未払法人税等	146,888	108,810
賞与引当金	125,902	136,982
その他	2,139,310	1,981,434
流動負債合計	3,347,333	2,866,749
固定負債		
役員退職慰労引当金	85,249	91,083
退職給付に係る負債	97,940	107,400
リース債務	1,371,237	1,334,969
その他	79,531	68,895
固定負債合計	1,633,959	1,602,348
負債合計	4,981,292	4,469,098
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,666,633	2,666,633
資本剰余金	2,270,490	2,270,490
利益剰余金	693,653	△121,728
自己株式	△228,445	△228,445
株主資本合計	5,402,332	4,586,950
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,956	25,460
為替換算調整勘定	44,764	56,749
その他の包括利益累計額合計	78,720	82,210
少数株主持分	636,922	612,685
純資産合計	6,117,976	5,281,845
負債純資産合計	11,099,269	9,750,944

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,323,097	5,780,648
売上原価	4,309,487	4,314,084
売上総利益	2,013,610	1,466,563
販売費及び一般管理費	2,319,175	2,000,855
営業損失(△)	△305,565	△534,291
営業外収益		
受取利息	7,427	3,015
受取配当金	1,100	900
為替差益	29,787	—
その他	11,866	7,397
営業外収益合計	50,181	11,312
営業外費用		
支払利息	68,695	59,720
持分法による投資損失	242,709	231,620
その他	3,323	35,450
営業外費用合計	314,728	326,791
経常損失(△)	△570,112	△849,770
特別利益		
固定資産売却益	10	—
持分変動利益	133,637	—
CDN契約譲渡益	—	169,129
特別利益合計	133,647	169,129
特別損失		
貸倒引当金繰入額	—	91,500
減損損失	46,059	—
特別損失合計	46,059	91,500
税金等調整前四半期純損失(△)	△482,523	△772,140
法人税、住民税及び事業税	77,182	92,982
法人税等調整額	114,912	10,283
法人税等合計	192,094	103,265
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△674,618	△875,406
少数株主利益又は少数株主損失(△)	21,359	△24,237
四半期純損失(△)	△695,977	△851,168

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△674,618	△875,406
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,334	△8,495
繰延ヘッジ損益	△10,763	—
持分法適用会社に対する持分相当額	7,750	7,225
その他の包括利益合計	13,322	△1,269
四半期包括利益	△661,296	△876,676
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△682,655	△852,438
少数株主に係る四半期包括利益	21,359	△24,237

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△482,523	△772,140
減価償却費	247,674	233,116
減損損失	46,059	—
のれん償却額	25,746	26,863
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4,243	98,566
賞与引当金の増減額(△は減少)	10,782	11,080
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,500	5,833
受取利息及び受取配当金	△8,527	△3,915
支払利息	68,695	59,720
持分法による投資損益(△は益)	242,709	231,620
持分変動損益(△は益)	△133,637	—
CDN契約譲渡損益(△は益)	—	△169,129
売上債権の増減額(△は増加)	481,119	19,364
たな卸資産の増減額(△は増加)	△691,687	103,728
仕入債務の増減額(△は減少)	128,545	△79,710
未払又は未収消費税等の増減額	△73,180	109,056
その他の資産・負債の増減額	△161,536	△262,826
その他	△32,029	33,721
小計	△322,044	△355,050
利息及び配当金の受取額	33,517	5,710
利息の支払額	△69,789	△59,377
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△127,452	50,172
営業活動によるキャッシュ・フロー	△485,769	△358,545
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
固定資産の取得による支出	△295,951	△152,913
投資有価証券の取得による支出	△10,000	—
投資有価証券の売却による収入	—	255
子会社株式の取得による支出	—	△29,643
貸付けによる支出	△280,000	△322,650
貸付金の回収による収入	300,000	18,000
CDN契約譲渡による収入	—	169,129
その他	18,491	17,943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△267,459	△299,878
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	74,000	△216,000
配当金の支払額	△97,890	△545
セール・アンド・リースバックによる収入	164,529	6,969
リース債務の返済による支出	△153,305	△148,780
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,666	△358,356
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,402	81
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△737,492	△1,016,699
現金及び現金同等物の期首残高	2,960,949	2,747,895
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,223,456	1,731,196

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	
売上高	1,361,216	2,095,178	1,253,725	853,660	759,316	6,323,097
セグメント利益又は損失(△)	△243,939	70,322	△66,053	26,534	△92,429	△305,565

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失に計上した額は一致しており、記載すべき事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「コンテンツ」セグメントにおける事業用資産について、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、第2四半期連結累計期間において46,059千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	コンテンツ	放送	スタジオ	技術	ネットワーク 営業	
売上高	1,014,165	2,289,567	1,209,307	669,634	597,972	5,780,648
セグメント利益又は損失(△)	△394,452	170,418	△197,337	790	△113,709	△534,291

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業損失に計上した額は一致しており、記載すべき事項はありません。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「技術」セグメントにおいて、ルーネット・システムズ(株)の株式を取得したことにより、同社を連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては30,150千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。